

**\* 東京天文台 100 年の記念のグリーティングカード、切手、たばこなどについて**

アーカイブ室新聞 222 号 (2009 年 8 月 12 日発行) に「東京天文台創設 75 年、及び東京天文台百年記念切手 初日カバー」という記事を書いた。この号で東京天文台 100 年記念切手について書いたが、この度、さる御仁から東京天文台 100 年記念のいくつかの品を見せていただいた。まずは、職員に配布されたグリーティングカードである。このグリーティングカードの表の写真は当時の東京天文台の航空写真 (写真 1) である。



写真 1 グリーティングカードの表の写真

この航空写真には、現在は東京大学理学部天文学教育研究センターが建っている場所にあったブラッシャー天体写真儀ドーム、太陽単色写真儀室 (モノクロ)、太陽分光写真儀室 (オバケ)、野外の望遠鏡、50cm シュミット望遠鏡室、ベーカーナンシュミットカメラ室、流星写真儀室など懐かしい建物も写っている。筆者愛用の「卯西儀」と呼ばれた 30cm 反射望遠鏡ドームも写っている。また今は無いロンビックアンテナ、固定 24m 球面電波望遠鏡、6m ミリ波電波望遠鏡など自動光電子午環が出来る前の様子、が写っている、そして今は 4 本しか残っていないポプラの並木が幾筋か残っている懐かしい写真である。

このグリーティングカードの内側には東京天文台 100 年の記念切手のシートの上段 4 枚が貼られ、記念スタンプが押されている (写真 2)。



写真2 記念切手が貼られた東京天文台100年記念のグリーティングカード  
次の2葉(写真3、4)は切手ミニガイドである。切手は1978年11月1日発行である。

1978年 11月1日

**切手ミニガイド** 第78号 郵便局

**東京天文台100年記念**

発行日 昭和53年11月1日

意匠 反射望遠鏡と星座

印面寸法 縦33.5mm 横25.0mm

版式刷色 グラビア6色

原画作者 武荒勲嗣

発行枚数 27,000,000枚

毎月23日は「ふみの日」です。  
手紙で心のふれあいを!!

プラチナ万年筆は、郵便局の「ふみの日」キャンペーンに賛同し、「ふみの日」テレホンサービスを実施中です。人気歌手の声の便りと新曲紹介、そして、あなたからのお手紙をお待ちしています。

☎03-294-9571 ふみの日テレホンサービス

宛先：〒160-91 東京都新宿郵便局  
私書箱101 郵便PR内

プラチナ製筆株式会社

写真3 切手ミニガイド

1978年 11月1日

**切手ミニガイド** 第78号 郵便局

**東京天文台100年記念**

東京天文台は、明治11年(1878年)東京大学理学部星学科の観象台として本郷において発足、明治21年(1888年)に東京天文台と改称し、麻布飯倉に移転、さらに大正13年(1924年)に燈火をさけて現在の三鷹市に移転し本年が創立100年に当たります。

東京天文台設置の目的は、東京大学附属の研究所として「天文学に関する事項の研究及び天象観測」を行うとともに国立天文台としての性格をもった「歴書編成、中央標準時の決定及び現示並びに時計検定に関する事務」をも行うこととなっています。

東京天文台は、研究活動のセンターを三鷹市におき、観測所その他の附属研究施設として乗鞍、岡山等の各地に8施設をそれぞれの目的に応じ設置しています。

切手の意匠は、岡山天体物理観測所の188センチ反射望遠鏡と星座を描いたものです。

(裏面は押印台紙としてご利用下さい)

毎月23日は「ふみの日」です  
手紙で心のふれあいを!!

秋の唄 清水由貴子

すっかろ秋に、なりました。  
顔面に落葉が散り散り  
都会の秋は枯葉色。

カエラが寒える ふるさとの  
紅葉を眺み、せせらぎを  
切ないほどに聴きます。

いまごろ どうして いるかしら?  
静かな夜は本を読み  
思いにふけていらつしやる  
そんな あなたに 手紙書く。

出逢いの不思議をしみじみと  
見つめる気持をそのままに  
素直なお便り書ける夜は  
わたしの秋は 琥珀色。

●お年玉つき年賀はがき  
11月6日(月)発売!!

切手ニュースのテレホンサービスは(03)294-9551です。

写真4 切手ミニガイド

切手ミニガイドに書かれた東京天文台100年記念の記事には「東京天文台は、明治11年(1878年)東京大学理学部星学科の観象台として本郷において発足、明治21年(1888年)に東京天文台と改称し、麻布飯倉に移転、さらに大正13年(1924年)に燈火をさけて現在の三鷹市に移転し本年が創立100年に当たります。

東京天文台設置の目的は、東京大学附属の研究所として「天文学に関する事項の研究及び天象観測」を行うとともに国立天文台としての性格をもった「歴書編成、中央標準時の決定及び現示並びに時計検定に関する事務」をも行うことになっています。

東京天文台は、研究活動のセンターを三鷹市におき、観測所その他の附属研究施設として乗鞍、岡山等の各地に8施設をそれぞれの目的に応じ設置しています。



切手の意匠は、岡山天体物理観測所の 188 センチ反射望遠鏡と星座を描いたものです。」とある。

写真 5、6 は東京天文台 100 年記念特集通信日付印と書かれたカバーである。

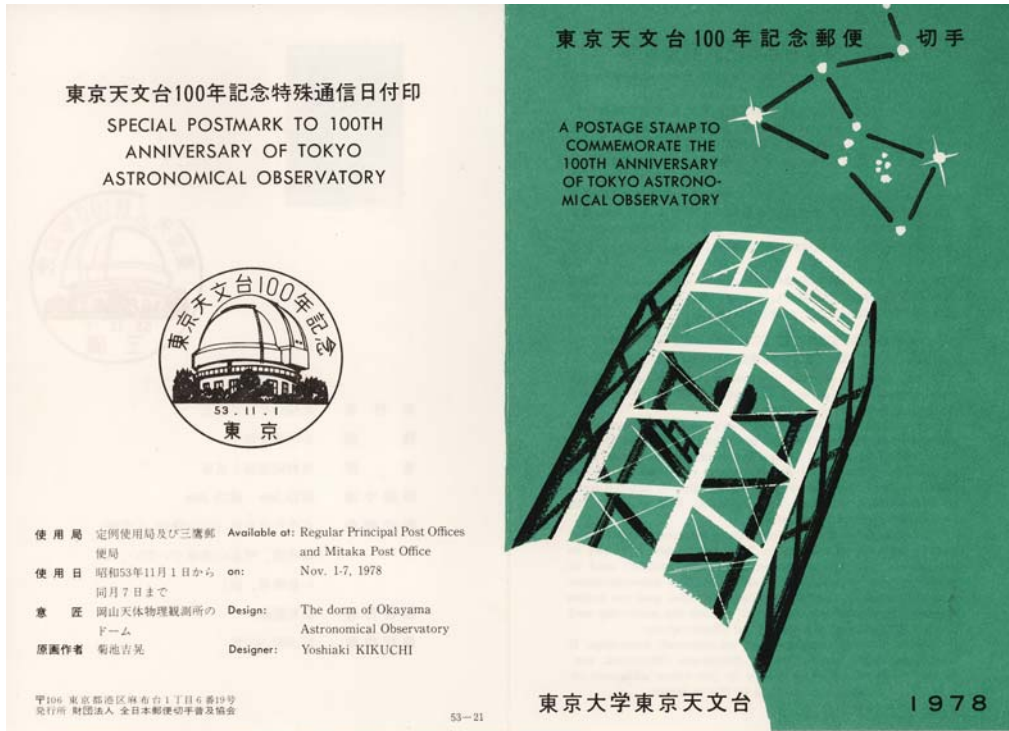


写真 5 東京天文台 100 年記念特集通信日付印



写真 6 東京天文台 100 年記念郵便切手解説

この東京天文台 100 周年を記念して、記念たばこも東京天文台 100 年記念式典出席者に配られた。今回の関係グッズ提供者は、この煙草の箱を開いた状態で見せてくれた。箱の状態よりもよくわかるので、箱状にしないでお見せする（写真 7）。

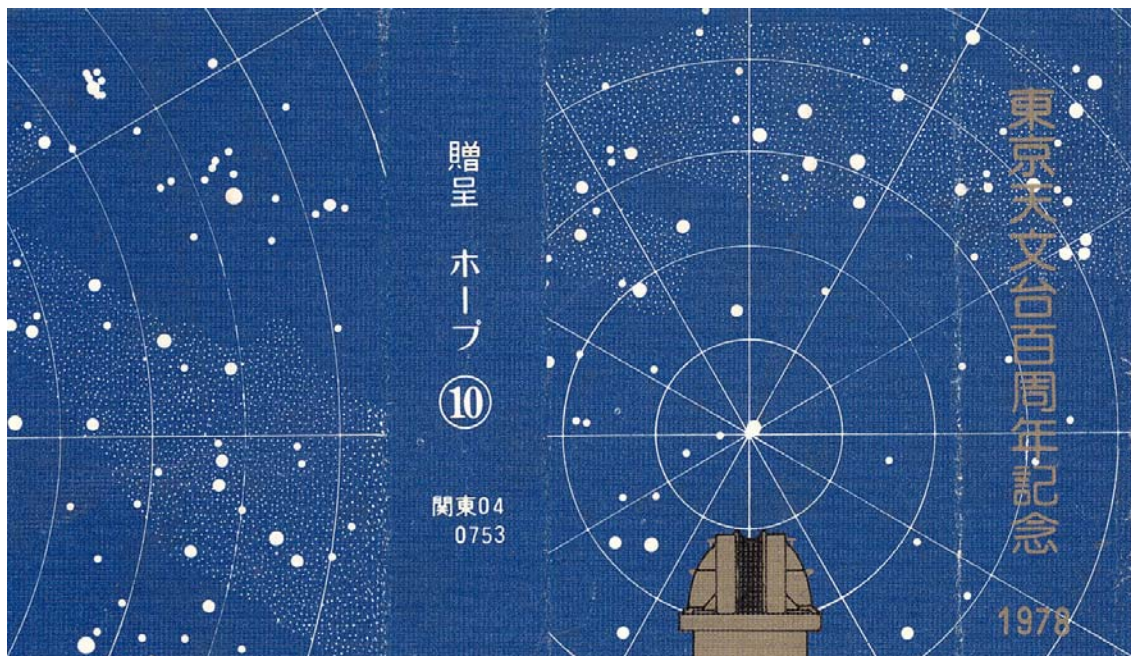


写真 7 東京天文台 100 周年記念式典で配られたたばこ「ホープ」

東京天文台 100 周年の記念式典は末元台長の頃、盛大に行われ、100 周年記念誌も発行された。記念式典、記念誌については稿を改めたい。